

ニュースリリース

(公財)さっぽろ青少年女性活動協会
 こども育成課
 ～街とともに 未来を育む 人づくり～

始動!!「行動規範」チーム!!あらゆる危害の恐れから



子どもを守る「チャイルド・セーフガーディング」

札幌市児童会館・ミニ児童会館を管理運営している(公財)さっぽろ青少年女性活動協会こども育成課では、「子どもたちが安全で安心感を得られる精神的な拠り所としての居場所作り」を会館運営の柱の一つとして取り組んでいます。そして、その根幹となる「子どもの安心・安全」に焦点をあて、暴言や体罰、性的虐待等のあらゆる危害から子どもたちを守る「セーフガーディング」の構築を進めています。今回、行動規範チームの始動を、先に全体向けに行いました「チャイルド・セーフガーディングワークショップ」とあわせてお伝えいたします。



ラベルワークで、身近な課題を影響・頻度の度合いも含めて出し合い、その対策について考え合います。(WS)

ワークショップは11月15日に、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 子どものセーフガーディングスペシャリスト 金谷直子氏を講師に迎え実施しました。

～チャイルド・セーフガーディングとは、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、子どもの安心・安全な活動と運営を目指す組織的取り組みを指し、子どもに関わる一人一人が子どもと適切な関係を築くことが求められます～

想定事例から行動規範を考えるワークでは、課題意識が全員一致のものも、考えが分かれ意見を交わすものもありました。これらの意見に対し、守るべき原点「子ども・子どもの権利」に立ち返って「子どもの最善の利益には、何が課題であり、何が必要なのか」を捉え明文化する重要さや、過度に意識が働いてしまい、健全な心身発達という安全が守れなくなるのではという不安も聞かれました。このバランスをとり、「子どもまん中」となる行動規範にまとめあげられるかが、私たちの鍵だと自覚しました。

この鍵に向き合う行動規範チームが発足し、12月8日には、金谷氏を交えてキックオフ会議を実施しました。このセーフガーディングは、決して一朝一夕で築けるものではありません。要となる行動規範策定から一つずつ積み上げを重ね、目に見える形として築いていきます。

策定チームは、立候補により構成されました。子どもたちとの関わり、児童会館としての役割の視点からも捉えています。(キックオフ会議)

(公財)さっぽろ青少年女性活動協会こども育成課では、子どもたちが「自分らしく」安心安全にすごせる環境を大切に、子どもの権利が宿る児童会館運営を行っています。私たちは、さらに児童会館に関わるすべての一人一人がその意識を高く持ち取り組むことで、社会全体への「子どもの安全」の浸透を図っていきます。



<(公財)さっぽろ青少年女性活動協会>

札幌市児童会館、ミニ児童会館をはじめ、こどもの劇場やまびこ座・こども人形劇場こぐま座、若者活動センター・若者支援総合センター、青少年山の家、定山溪自然の村、北方自然教育園、千歳市児童館・学童クラブの管理運営をとおり、「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」を実現していきます。

<本件に関するお問い合わせ先>

こども育成課 担当 細川 ikuseika-release@syaa.jp TEL011-671-4121
 (公財)さっぽろ青少年女性活動協会 〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10
 <HPアドレス> <http://g-kan.syaa.jp>

